infection

戸田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ

【Ｎコード】
Ｎ６７８２Ｔ

【作者名】
戸田

【あらすじ】
僕と、ボク、そして『ボク』と『僕』のお話です。

「ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ？」
「そう、ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ」
放課後、目隠しをしたようなくらい真っ暗な教室で僕は問うた。
墨みたいといわれた目を出したり消したりして、目の前のボクは微笑む。
ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ――つまりは感染であるが、僕は何かに感染した覚えはないし、伝染した覚えもない。
まったくもって無知である。
「仕方ないよ、産まれたばかりだものね」
でも、いつかは嫌でも理解するよ、と力のない手で僕を撫でた。
その手は父のように温かであり、母のように柔らかであった。
とても安心できる。
しばらくすると、僕の手から小さいボクが消えた。
さっきは大きかったのに、徐々に小さくなって、最後はまるで飛び回る分子だ。
さよならも言えなかった、僕が産まれてからずっと一緒だったのに。
ありがとうも言えなかった、今までずっと安心感を与えてくれたのに。
ｉｎｆｅｃｔｉｏｎの、本当の事も教えてもらってない。
やがて、目の前に新しい『僕』が産まれた。
僕は『ボク』となった。
『僕』は今の『ボク』より、なんて野生的で暴力的で雄雄しいのだろう。
『僕』は『ボク』の喉元に噛み付くように襲い掛かってきた。
太くなくなった『ボク』の首を絞め始める。
『ボク』がボクを締め上げていたのと同様に。

もしかしたら『僕』はずっと僕の行動を見ていたのかもしれない。
それが『僕』に悪影響を及ぼしていたならば、僕はやってはいけないことをしていたのかもしれない。
アボガドロがもしも現在も生きていてくれれば、分子で生きていた『僕』に少しでも早く気が付けただろうに。
『ボク』はボクが開いていた辞書を見た。
項目に　ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ　と書かれている。
――伝染、感染、伝染病、悪影響――
「なるほど、これは間違いなくｉｎｆｅｃｔｉｏｎだ」
『ボク』は辞書から目を離し、まだ幼い『僕』を見つめた。
『僕』が次に言うであろう言葉の答えを頭に浮かべながら。

――ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ？
――そう、ｉｎｆｅｃｔｉｏｎ

（後書き）

これも数年前に書いたものです、嘘と大体同じ時期に書きました。
辞書で引いた際に偶然見つけて。
登場人物は、皆同じ人物で、無限にループをしてます。
親の背中を見て育つ、ということです。

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6782t/

infection

2011年10月8日21時08分発行